

発想の転換を 校長 堀野智宏

本日、市立札幌啓北商業高校を巣立つ卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。お祝いの言葉は式典で伝えますので、ここでは別の話を致します。

令和3年度も残りあと1か月で終わろうとしています。1・2年生はそれぞれ学年が一つ上がり、3年生が巣立った後、新入生が本校にやってきます。

さて、皆さんの高校生活を語るうえで、新型コロナウイルス感染症による様々な影響を無視することはできません。各種行事が延期や中止となり、自粛の名のもと、部活動や大会等が満足に実施できない状況が続きました。3か月もの間、全国一斉の臨時休校が行われた時期もありました。学校が再開されてからも、時差登校や完全下校、換気にマスク着用、ソーシャルディスタンスの確保や黙食の励行等、行動や活動にも制限が残りました。

今も新たな変異株の報告が続く微小なウイルスによって、私達の生活は一変しました。しかし、その変化は新たな可能性を生み出しました。

人との接触機会を低減するためリモートワークやフードデリバリーが当たり前となり、オンラインミーティングが常識となりました。GIGAスクール構想が前倒しされ、義務教育ではBYOD（一人一台端末）が実現し、高校ではこの春の新入生から始まります。

制約は決してマイナスなものではありません。制限の中で何とか実現しようと工夫します。新しい試みが行われます。「何で出来ないか」ではなく、「どうすれば出来るか」を考えるようになります。

山を登るときは苦しいですが、登った先には絶景が待っているはずですが、真っ平らな道は楽ですが、そこには制限がありません。制限をルールと考えましょう。スポーツもゲームもルールがあるから成り立ちます。ルールの中で知恵を絞って、攻略する手立てを考えます。ルールを無視して勝利しても達成感はありません。

山の頂上で目にする絶景と、ルールの中で工夫し、実現した時の達成感は同じではないでしょうか

発想を転換し、制約を楽しみましょう。